

地域医療連携センター

地下鉄七隈線博多駅延伸で『バリチカ!福大』 SNS 広報活動のご紹介

地域医療連携センター 看護師 東 千代美
ひがし ちよみ

地域医療連携センターのご紹介

地域医療連携センターは、主に地域の医療機関からの紹介患者さんの事前予約等を行う前方連携と、入院中の患者さんの退院支援を行う後方連携(退院調整・医療福祉相談)で構成されています。また、医療情報の発信として



前方スタッフ

後方スタッフ

セミナーの開催や地域の医療、介護、福祉事業所や行政機関とも連携を図り、患者さん、ご家族の支援を行っています。

地下鉄七隈線博多駅延伸開業に伴う広報活動の開始にあたって

2023年3月27日に地下鉄七隈線が博多駅まで延伸され、乗り換えなしで博多駅、福大間に行き来できます。また、12月には現新診療棟横に新本館(仮称)が竣工し、新しい福岡大学病院が誕生します。当院の医療提供体制が充実するとともに、交通

アクセスがさらに便利になり、遠方の方も来院しやすくなります。そこで、岩崎病院長の第一声で当院の魅力を知っていただくための広報活動に取り組み始めました。博多駅周辺のクリニックには各診療科の医師とともに医療機関訪問を実施しております。

さらに、幅広い年齢層の地域の方々に、交通の利便性向上と地下鉄直結の唯一の大学病院であることを知っていただくために、SNS(Twitter/Instagram)での広報活動を地域医療連携センターが中心となって行っておりますので、広報活動内容をご紹介します。

NANAちゃんとKUMAくんと一緒に「バリチカ!福大」をよろしくお願ひします

キャッチコピーは、博多弁で福岡大学病院が「地下鉄直結」していることと博多駅から乗り換えなしで来院できる「近さ」を感じることを一言で表すならこれ!ということで「バリチカ!福大」に決定しました。マスコット

は福岡大学病院がある「七隈」にちなんでウサギのNANAちゃんとクマのKUMAくんです。今後は、このマスコットたちが、当院の魅力を発信してまいりますので、どうぞご期待ください。



SNS (Twitter/Instagram) での情報発信

2022年11月1日より毎週火曜日と金曜日にTwitterとInstagramで地下鉄七隈線延伸開業までの計37回にわたり各診療科・部門のそれぞれの紹介コメントを画像とともに定期配信

しています。福岡・糸島医療圏にとどまらず、たくさんの方々に

「福岡大学病院」を知っていただく機会になればと思っています。

Twitter  https://twitter.com/Fukudai_hrenkei

Instagram  https://www.instagram.com/fukuoka_u_h_hrenkei/

福大病院 No.122 ニュース

Fukuoka University
Hospital News

2023
新年号
WINTER

2023年 新年のごあいさつ

福岡大学病院
病院長 岩崎 昭憲
いわさき あきのり

明けましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、つがなく新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

さて今年の干支は、癸卯(みずのとう)で、癸と卯の組み合わせから、これまでの努力が実を結び、勢いよく成長し飛躍するような年になると伝えられています。きっとコロナの語句が社会から払拭される年であることを期待します。

当院では、切望していた病院新本館(仮称)の建設工事も順調に進んでおり、今年12月に竣工を予定しています。地下1階、地上11階で、屋上にはヘリポートを備

えた病院になります。毎日建設が進んでいく様子に期待が高まります。この建物に装備する最新大型医療機器、第V期統合医療情報システムは順次組みこまれていきます。これにより以前にもまして、質の高い医療提供が可能になります。またDX、AIを活用したオンライン予約申込、診療など、快適な医療環境の提供につながるはずで

今年の外部環境変化の一つに、地下鉄七隈線の博多駅への延伸開業が3月27日に予定されています。これによりアクセスがさらに向上するとともに、医療圏も広が

ります。

また将来の優れた医療人を育てる大学病院としての使命に応えるため、職員一丸となって取り組みを強化しています。おかげさまで大学病院群でも高い人気の研修施設として評価を受けています。来年からの「医師の働き方改革」開始が、地域医療に影響がでないよう筑紫病院や西新病院とも連携し取り組んでまいります。

当院は1973年8月4日に開院し、ちょうど節目の50周年を迎えます。今後も皆様の変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



病院執行部と事務部門

Open! 当院では、各種SNSを開設しています!

公式YouTubeチャンネル
<https://www.youtube.com/channel/UCYwMO3PwlaDYNVvXTXVUocA>

Facebook
<https://www.facebook.com/FukuokaUniversityHospital/>

twitter
<https://twitter.com/FukuokaUnivHosp>

instagram
<https://www.instagram.com/fukuokaunivhosp/>



福岡大学病院

〒814-0180 福岡市城南区七隈七丁目45番1号
TEL (092) 801-1011(代) URL: <https://www.hop.fukuoka-u.ac.jp/>



認知症疾患医療センター

「認知症を知る」～こころの理解と対応～

認知症疾患医療センター

認知症疾患医療センターのご紹介

認知症を理解する

認知症は年齢を重ねていけば増えていく病気であり、ありふれたものです。認知症のことを恐

れるのではなく、正しく理解して、認知症になっても生き生きと生活できる社会を目指すべきです。

認知症を理解するためにはいくつかのポイントがあります。

認知症はいろんな原因で起こる

認知症は「なんらかの脳の障害によって、いったん正常に発達した知的機能が持続的に低下し、記憶や理解、判断などの認知機能障害があるために社会生活に支障をきたすようになった状態」と

定義されています。病気ではなく、あくまでも状態であるということ、物忘れだけでなく認知機能には様々なものがあること、原因が脳の障害によるものであること、というのがポイントです。物忘れ

があるだけで認知症だと安易に決めつけないようにしましょう。認知症の原因によって治療法は違いますので、それらを鑑別することがとても重要です。

認知症の治療は「薬」よりも「関わり」

認知症は原因によって薬や手術で治るものがあります。一方、アルツハイマー病のような変性

疾患は今のところ根本的に治す方法がありません。症状の進行を少し遅らせるくらいしかできないのが

現状です。この場合、認知症について理解し、認知症の人のこころを扱う「関わり」が重要となります。

認知症の人のこころ

認知症の人の多くは、自信をほとんどなくしかけ、家族の中でどう振る舞っていいのか悩み、居場所がなくなったように感じています。そして、それをやり過ぎそうと、取り繕ったり、虚勢を張ったり、閉じこもったり、知らず知らずに心理的に無理な努力を重ねて

います。認知症が進行すると、次第に自信がなくなり、引きこもりがちになり、これまでの家庭内または地域社会での役割も失っていきまます。「自分はどうすべきなのか」と戸惑い、「いったい自分はどのような存在なのか」と気持ちは揺らぎます。さらに進めば、「こんな

ことなら、もう自分なんていなくていい」といった自己否定的感情まで抱くようになります。

認知症の人の家族も同じように様々な思いを抱えます。こういった認知症の人、その家族のこころを扱う「関わり」が治療の上では欠かせません。

認知症を支えるシステム

ここで紹介する認知症疾患医療センターのほかに、認定を受けた「サポート医」や「もの忘れ相談医」といった、地域で認知症を支えるために連携体制が組まれています。お住まいの地域の「サポート医」などを調べてみると良いでしょう。ま

た、地域包括支援センターでは介護や医療、保健関係などいろいろな領域の関係機関と連携し、高齢者からのあらゆる相談に応じています。病院を受診することも重要ですが、地域包括支援センターに早めに相談するようにしましょう。



精神神経科
医師 飯田 仁志
いいだ ひとし

近年、我が国では高齢化が急速に進み、2021年総務省の統計では65歳以上の高齢者人口は総人口に占める割合の29.1%と過去最高となりました。この割合は今後も上昇を続け、2040年には65歳以上の高齢者人口は35.3%になると見込まれています。一方、内閣府の65歳以上の高齢者の認知症患者数と有病率の将来推計では、2012年は認知症の有病率が15.0%（7人に1人）でしたが、2025年には5人に1人になると見込まれています。このように超高齢社会を迎えた我が国では、認知症は誰でもかかる可能性のある身近な病気となりました。

認知症疾患医療センターは、認知症の方やその家族が住み慣れた地域で安心して生活するために都道府県及び政令指定都市が病院に設置するもので、保険・医療・介護機関等と連携を図りながら「認知症に関する専門医療」

「鑑別診断とそれに基づく初期対応」「周辺症状や身体合併症に対する急性期対応」「地域連携の推進」「各種研修会の開催」を行う専門医療機関です。

福岡大学病院は、2014年11月より福岡市認知症疾患医療センター事業を運営しています。新館2階の「もの忘れ外来専門センター」では月曜日から金曜日の午後に精神神経科と脳神経内科の医師が担当制で診療を行っています。当外来受診は、かかりつけ医から地域医療連携センターへ事前予約をしていただきます（完全予約制）。初診日に医師の診察と公認心理師による認知機能検査、再診日には詳しい画像検査を行います。これらの結果をもとに鑑別診断を行い、治療方針の選定を立案し、その後かかりつけ医にて治療継続となります。また、当外来には「認知症疾患医療センター相談室」を設置し、精神保健福祉士や保健師が

電話や面接による認知症専門医療相談に応じています。

誰もが年をとると物忘れを自覚するようになります。加齢に伴う脳の老化現象が主ですが、認知症の可能性もあります。認知症は、早期発見・早期診断・早期治療がとても重要です。原因となる疾患によっては治るものや進行を遅らせることができるものもあります。認知症に関する悩みや心配事がありましたら認知症疾患医療センターにご相談ください。



認知症疾患医療センター
精神保健福祉士 梅田 恵利子
うめだ えりこ



より認知症について知りたい方はこちらの動画もご覧ください

📺 学んで予防！
《福大病院 健康セミナー》
<https://youtu.be/q5sPzyOytSo>

